

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

No.117		宇納間（うなま） 地区	生物地理区分		シイ・カシ萌芽林	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	宮崎県	地形 条件	○ 1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
				4.低地	5.その他	
	市 町 村	美郷町	環境 要素	◎ 1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
	集落名称等	宇納間（うなま）		7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林
		10.その他				

環境要素 (対象とする地域に含まれる環境要素)

◎:面積割合が最大のもの ○:それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状



写真の説明：宇納間（うなま）備長炭一級品



写真の説明：宇納間（うなま）備長炭窯出

No.117		宇納間（うなま）地区		取組主体	◎	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	宮崎県				2.団体・企業・学校等
	市町村	美郷町				3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	宇納間				4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他	

取組 主体	主な主体の名称		美郷町木炭生産組合		
	その他の主体の名称				
目的 ●：主 ○：その他	●	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承			
		対象	生活行事		
			資源利用技術	＊	宇納間備長炭
			その他		
	取組内容		古くより日向地方一帯はアラカシを原木とする日向備長炭の生産地として有名であった。美郷町など当地域一帯では現在も料理用の高級炭が生産されており、その中でも著名なのがうなま備長炭である。木炭生産が続くことによって、里山は現在も利用され、伝統的里山景観が宇納間一帯に広がっている。 北郷区の木炭は「宇納間備長炭」として非常に珍重されている。		
		7.その他			
取組内容		宮崎県の山間地域では、昔から木炭づくりが盛んで「日向木炭」として重宝されてきた。やがてエネルギー資源の移り変わりによって、需要が減ったが、現在では高級料亭などで料理用として、また炭の持つ殺菌作用や脱臭・除湿作用が見直されてきている。			
連携・協働による 取組内容・役割分担等					
取組の特徴や強調したい点			・木炭生産が続けられ、里山景観（アラカシの低林景観）が現在も持続している。 ・里山に対して新しい視点からの活用ということではなく、昔からの伝統的な里山利用を本地域では現在も続けているのが大きな特徴である。炭窯も 30 基以上も存在し、木炭の原木林であるアラカシ林の利用・更新も問題はない。国内で伝統的な里山利用が行われているのは川西市黒川（池田炭・一庫炭）、と当地域と和歌山県田辺市などきわめて限られる。		

取組の概要	伝統的な里山利用である木炭生産の継続による里山景観の維持	課題グループ ●景観文化 ●手法
事例の特性	伝統的な資源利用・管理手法の継承（薪炭林）	
取組の中で他の地域の参考となる点	アラカシを原木とする日向備長炭の産地として古くから有名な地区だが、今も料理用の高級炭として伝統的な手法により生産されており、利用・更新によって維持されるアラカシ低林の里山景観が一帯に広がっている。	